

## [12] 日向市小体連

(学校数13校 児童数3,527人)

### I 年間事業

| 実施日       | 事業名         | 主な内容                            | 会場                |
|-----------|-------------|---------------------------------|-------------------|
| 5月10日(木)  | 第1回理事会      | 役員選出、年間計画                       | 日向市中央公民館          |
| 6月5日(火)   | 第2回理事会      | 30年度の研究の方向性確認<br>水泳大会計画案検討      | 日向市中央公民館          |
| 7月5日(木)   | 第3回理事会      | 研究内容について<br>水泳大会計画案             | 教育研究所<br>(日知屋小)   |
| 7月26日(木)  | 水泳大会(中止)    | 水泳大会の実施                         | 日知屋小学校<br>財光寺南小学校 |
| 7月26日(木)  | 第4回理事会      | 水泳記録集計(各学校実施分)<br>水泳大会に向けての取組反省 | 教育研究所<br>(日知屋小)   |
| 8月23日(木)  | 第5回理事会      | 研究内容推進<br>陸上大会計画案検討             | 日向市中央公民館          |
| 10月18日(木) | 第6回理事会      | 研究内容推進<br>陸上大会計画案検討             | 日向市中央公民館          |
| 11月1日(木)  | 陸上大会前日準備    | 陸上大会前日準備                        | 大王谷陸上競技場<br>大王谷学園 |
| 11月2日(金)  | 陸上大会、第7回理事会 | 陸上大会役員<br>記録集計、陸上大会反省           | 大王谷陸上競技場<br>大王谷学園 |
| 11月15日(木) | 第8回理事会      | 陸上大会反省<br>研究内容推進                | 日向市中央公民館          |
| 12月6日(木)  | 第9回理事会      | 講話「体育科における『分かる・<br>できる』指導について」  | 大王谷学園             |
| 1月22日(火)  | 第10回理事会     | 研究内容のまとめ                        | 日向市中央公民館          |
| 2月14日(木)  | 第11回理事会     | 次年度の方向性について                     | 日向市中央公民館          |

### II 事業部のあゆみ

#### 1 水泳大会

- (1) 大会名 第47回日向市小学校水泳大会
- (2) 実施日 平成30年7月26日(木)
- (3) 会場 財光寺南小学校、日知屋小学校
- (4) 出場者 日向市内各小学校5・6年生代表(383名)
- (5) 実施種目 自由形(25m・50m)、平泳ぎ(25m・50m)、リレー(25m×4名)
- (6) 競技方法
  - ・タイムレースとする。
  - ・出場は、リレーを除き1人2種目とする。
  - ・競技は原則として学年別、男女別とする。
  - ・その他細部については、日向市小学校体育連盟による競技規則を適用する。

- (7) 日程 開会式 8:45～ 競技 9:20～11:45 閉会式 11:45～12:00
- (8) 表彰 ○ 各会場で測定した記録を集計し、上位3位までを入賞として表彰する。  
○ 参加児童全てに記録賞を渡す。

(9) 反省

今年度も、昨年度と同じく2会場での開催を予定していた。しかし、気温が非常に高い日が続き、全国各地で熱中症の被害も出ていたことから、児童の安全面を考慮して、水泳大会の開催を中止し、各校での記録を持ち寄る対応を取った。水泳大会前々日の決定ということもあり、細かな対応を各学校で委ねた結果、水泳記録会を校内実施しての記録、体育科授業における記録などと、提出されたものは、学校によって様々であった。

今年度の反省を受けて、次年度以降は、各学校による水泳記録会を実施する予定である。小体連として、細かなルール設定や調整を行い、それを日向市全体で共有した上で、実施できるよう計画したい。

## 2 陸上大会

- (1) 大会名 第48回日向市小学校陸上大会
- (2) 実施日 平成30年11月2日(金)
- (3) 会場 大王谷陸上競技場
- (4) 出場者 日向市内小学校6年生全児童 (577名・小規模校は5年生児童含む)
- (5) 実施種目 ○走り高跳び ○走り幅跳び ○ソフトボール投げ ○50mハードル走  
○短距離走(100m) ○長距離走(男子1000m、女子800m)  
○リレー(100m×4名)
- (6) 競技方法 ・選抜での出場はリレーを除き、1人1種目とする。また、どの児童も一般の100mに出場し、計2種目出場することとする。  
・「走」競技は、スタンディングスタートとする。  
・靴は、普段体育で使用する運動靴とする。  
・その他細部については、日向市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程 開会式 9:30～ 競技 10:30～14:50 閉会式 15:00～
- (8) 表彰 ○ 上位3位までを入賞として表彰する。  
○ 参加児童全てに記録賞を渡す。

(9) 反省

今年度も晴天で、水泳大会でも懸念された熱中症の心配も少ない穏やかな気候のもと、陸上大会を実施することができた。児童も絶好のコンディションのもと、日頃の練習の成果を発揮することができたように感じる。また、昨年度の反省を、もう一度細かく理事会で確認した上で、本年度の計画を立てて準備・運営を行ったため、よりスムーズに実施することができた。加えて、各学校の先生方にもご協力いただき、安全面にも配慮しながら運営できたことは大変良かったと思う。

記録に関しては、標準記録突破者が男子0名、女子3名と昨年を引き続き、女子の活躍が目立った。ただ、記録以上に、今年度は他校の児童と関わり合おうとする児童の姿が多く見られ、児童にとっても有意義な時間になったように感じる。競技面や運営面で反省したことを確実につなげることで、次年度は、より良い大会運営ができるようにしたい。

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### 1 研究主題及び副題

確かな知識・技能を身に付けた児童の育成  
～ 体づくり運動における「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して ～

#### 2 主題設定の理由

平成29年3月31日に新しい学習指導要領が告示され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善という新たな授業スタイルが示された。このような新たな授業スタイルの導入の背景には、現代の子どもたちを取り巻く社会的課題がある。特に、子どもの貧困率の上昇による体験活動の減少、特別支援教育の対象となる子どもの増加、外国籍の子どもや親の増加による言語や文化の多様化等があげられる。そのため、未来を生きる子どもたちは、社会を取り巻く諸問題に対し主体的にかかわりつつ、多様性を尊重しながら異質の他者と協働していくことを迫られている。さらに、既存の解決方法を適用するのではなく一人ひとりが自分の考えや知識を持ち寄り、新たな答えを導き出す学習を取り入れることも同時に求められている。

次期学習指導要領の体育科の目標（1）には、「その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身につけるようにする。」と示されており、これまでと違って運動の行い方について「わかる」という知識の要素が大きく盛り込まれた。これは、「わかってできる」「できてわかる」といった相互関係のなかで、知識の理解を基に運動技能を身に付けたり、運動技能を高める経験から知識の理解を深めたりすることを大切にする必要があると判断されたからである。体育科における「主体的・対話的で深い学び」の具体的な実践については、運動やスポーツの価値や特性を生かしながら、自己の適性に応じた「する、みる、支える、知る」などの多様なかかわりの中で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」といった資質・能力の育成が望ましいと示されている。そこで、本研究では、体づくり運動の学習において、確かな知識・技能を身に付けた児童を育成する指導と評価について究明することにした。

#### 3 研究の目標

体づくり運動の学習において、「わかる」「できる」実感をもたせ、確かな知識・技能を身に付けた児童を育成する。

#### 4 研究の仮説

体育科の体づくり運動の指導において、実態調査による課題の明確化をし、技能と知識が相関的に高め合える学習過程を工夫すれば、確かな知識・技能を身に付けた児童を育成できるだろう。

#### 5 研究内容

##### （1）学習過程の工夫

確かな「知識・技能」をどのようにして身に付けるのかを明確にする。また、その「知識・技能」が豊かなスポーツライフの実現にどう繋がるのかを明らかにする。

##### （2）実態調査による課題の明確化

新学習指導要領の実施に向けての、教員の指導上の課題や児童の体力面における実態を把握するために、アンケートを実施した。

##### （3）職員研修の実施

新学習指導要領の目標に定められた「知識・技能」についての研修会を実施した。

## 6 研究の実際

### (1) 学習過程の工夫

「知識・技能」の指導が児童の豊かなスポーツライフの実現にどう繋がるのか、そのプロセスを整理した。それが図1の通りである。「知識」と「技能」の往還の中で、「できてわかる」「わかっている」実感をもたせる。そうして身に付いた「知識・技能」はより体系化され、他の運動やスポーツにも生かすことができる。そのようなして、身に付けた「知識・技能」が活かされた時に、運動が楽しいと感じさせることに繋がると考えられる。また、このことは深い学びの実現にも繋がると考えられる。

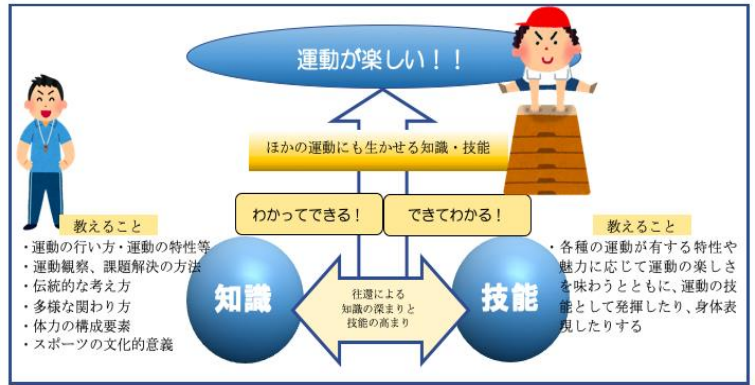


図1「知識・技能」定着のプロセス

### (2) 実態調査による課題の明確化

研究を進めるにあたって児童の体力や、教師の課題意識を調査することにした。質問紙や校務支援ソフトのアンケート機能を活用し、選択式及び記述式のアンケートを実施した。アンケート結果からは、市内の児童は「動きを持続する能力を高める運動」に課題があること、職員はワークシートや教具等を求めていること等が分かった。児童の実態や教師の課題意識に応じて、今後の研究内容を模索していく必要がある。

### (3) 職員研修の実施

新学習指導要領の目標に定められた「知識・技能」の指導と評価については、担任等の不安感が大きいことが、研修を進める中で分かった。そこで、先行的に研究を進められている南九州大学の宮内孝教授を招き、実技を通じた職員研修を実施した。

宮内教授の講話の中で、知識として何を教える必要があるのか、また技能と知識とを関連付けながら指導していくこと等が挙げられた。

また、教材の工夫についても具体的に教えていただき、今後の研究や各職員の指導力向上につながる研修となった。



図2 職員研修の様子

## 7 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 「知識・技能」を高める指導内容を明確化し、体系化された知識・技能がどのように豊かなスポーツライフの実現につながるのかを理解することができた。
- 市内の児童の体力の実態や、職員の意識の実態をつかむことができた。
- 職員研修を通して、「知識・技能」の指導と評価について理解を深めることができた。また、今後の実践につながる事例を知ることができた。

### (2) 今後の課題

- 「知識・技能」を高める指導と評価について究明し、授業実践をする。
- 研究内容を整理し、市内の全職員に報告する。
- 今年度は、理論を中心に研究を深めたので、次年度以降はさらに具体的に指導法を整理する必要がある。

## IV まとめ

今年度、熱中症対策として児童の安全面を考慮し、水泳大会の開催を中止したが、次年度以降、細かなルール設定や調整を行い、各学校による水泳記録会を実施できるよう計画していきたい。

研究については、今年度の内容を踏まえ、次年度は研究目標の達成にむけて、授業実践を取り入れながら、具体的な指導法を中心に進めていきたい。